

# 頑張る 農業法人

南丹市園部町黒田地区で、1980年に圃場整備が完成したのを機に、農地を守ろうと結成された任意組織「黒田営農組合」が、高齢化・担い手不足が進み、地域ぐるみで効率的に農業・農地を維持しようと、2010年2月に農事組合法人化した。

地区全体の水田の約半分を作業受託する他、ブロッタローテーションで、特産の「京都大納言」や「丹波黒大豆」などを生産し、全ての農地を守り抜いている。今後は、販売促進に取り組み地域活性化を目指す。

同地区は同町北部で京丹波町に隣接する。農家47戸の水田約30畝が広がり、かつては田んぼに咲いたレンゲをすき込んで

栽培した特別栽培米コシヒカリ「れんげ米」の産地。現在は、JA京都推奨の有機質肥料を元肥に投入する園部産コシヒカリ「京みのり」を栽培する。

同地区も高齢化が進み、若い担い手が不足し、作付けができない農家が増えてきたため、利用権取得で集落の農地保全を目的に、JAや府の指導で法人化の検討を進め、44戸で立ち上げた。

役員は森政美代表理事ら理事5人と監事2人。実行委員会として、総務・販売促進、農地利用、作付栽培・加工、施設農機、農作業の5つの委員会を設け、全組合員で組織する。

現在、水稲16畝を農作業受託し、ブロッタロー

## 黒田営農組合

南丹市園部町

### 地域ぐるみで農業守る



農地・農業維持を目指す森代表理事（左）ら役員

## 地区内水田の半分を作業受託

テーションによる「京都大納言」1・1畝、丹波黒大豆」1・7畝、カブラ40畝、「紫ずきん」25畝などを作付して経営する。

トラクター5台、コンバイン3台、田植え機2台を保有し、効率的な作業に取り組む。全組合員が、それぞれの実行委員会組織を中心に作業し、地域ぐるみで農地・農業維持に励んでいる。

一方、米価の低迷や豆類の生産に手間がかかること、農機具の老朽化で更新期にあることなど、経営的には厳しい環境だが、「だからと言って受託料アップはしない。販路拡大などの具体化が今後の課題だ」と森代表理事。「法人は地域農業をみんなで守る中核としたい。また若手も負担を感じず、協力してもらえようしていきたい」と抱負を語る。

▽法人の所在地 南丹市園部町黒田柳ヶ坪12の2